

科目名	社会心理学	科目分類	■ 専門科目群 □ 総合科目群	
			法律学科	□ 必修 ■ 選択
英文表記	Social Psychology	開講年次	□ 1年 □ 2年 ■ 3年 □ 4年	
			開講期間	□ 前期 ■ 後期 □ 通年 □ 集中
ふりがな	たきざわ じゅん	実務家教員担当科目	修得単位	2単位
担当者名	瀧澤 純	実施方法	■ 対面のみ □ 遠隔のみ □ 対面・遠隔併用	
授業のテーマ	人は他者とともに行動する。また、他者との関係性によっても、他者の存在を意識することによっても行動に影響を受ける。このような「他者と関わる時」の行動と心理に迫りたい。			
到達目標	他者と関わるための知識・技能・思考力・表現力を身につける。また、授業を通して、法や社会のあり方を見直すことができるようになる。			
授業概要	社会心理学に関する講義を行う。人権、裁判、犯罪など、法学との関連が深い心理学についても取り上げる。グループワークなど、他の受講者と関わりながら学ぶ。			
授業計画				
第1回	ガイダンス：社会心理学の歴史と研究方法、人間観の変遷、社会的認知、二重過程モデル、研究結果の再現性			
第2回	自分が大事？他人が大事？：行為者－観察者バイアス、援助行動、社会的促進・抑制、最後通牒ゲーム			
第3回	自己の価値を考える：自尊感情、社会的比較、自己高揚動機、自己奉仕バイアス、ポジティブ・イリュージョン			
第4回	自己を他者に見せる：防衛的自己呈示、主張的自己呈示、自己開示、自己概念、20 答法、鏡と自己呈示			
第5回	自己と他者を評価する：対人魅力、印象形成、ハロー効果、予言の自己成就、裁判における公判前情報			
第6回	他者の特性を判断する：ステレオタイプ、偏見、差別、内集団びいき、社会的アイデンティティ、黒い羊効果			
第7回	他者の感情を理解する：共感ギャップ、自己中心性、心の理論、マクシ課題、社会的スキル			
第8回	他者の言葉を理解する：誤解による航空事故と医療事故、CMC、視点取得、司法面接での尋問の技法			
第9回	他者との関係を深める：親密化、恋愛か友情か、六つの恋愛のスタイル、恋愛観における文化差、生殖戦略			
第10回	他者との関係を調整する：ジレンマと葛藤、囚人のジレンマ、社会的交換、バランス理論			
第11回	他者の意見や態度を変える：態度の測定方法、説得、精緻化見込みモデル、段階的要請法、譲歩的要請法			
第12回	他者と争う：攻撃行動、社会的排斥、資源円環モデル、衝動的攻撃と熟慮的攻撃、紛争の解決、謝罪			
第13回	他者に合わせる：聴衆デザイン、認知的不協和理論、Asch の同調実験、監獄実験			
第14回	集団で情報を伝えあう：噂、流言、デマ、アナウンスメント効果、社会脳仮説、噂の変容、災害と噂			
第15回	集団で意見を決める：集団決定、リスクシフト、コーシャスシフト、話し合いの効果、量刑判断と量刑相場			
第16回	定期試験			
授業時間外の学習	シラバスの授業計画に書かれている用語について予習すること（1.5 時間程度）、出題される課題を行うこと（1.5 時間程度）が必要である。			
履修条件 受講のルール	心と行動Ⅰと心と行動Ⅱの単位を取得していることが望ましいが、必須ではない。空欄がある資料を授業中に配布する。空欄を埋めた状態の資料すべてが、定期試験の範囲となる。			
テキスト	使用しない。			
参考文献・資料	池田 謙一ほか『社会心理学 補訂版 (New Liberal Arts Selection)』（有斐閣、2019 年） 藤田政博『法と心理学』（法律文化社、2013 年）			
成績評価の方法	平常点（授業態度、提出用プリント）を 40%、定期試験を 60%として評価する。平常点の中の「提出用プリント」は、科目担当教員が内容の充実度を判断し、成績に加味する。定期試験は持ち込み不可とする。出席回数が規定に満たない場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は、試験を受けることができない。			
オフィスアワー	月曜日の 3 時限（13:00 から 14:30）、金曜日の 2 時限（10:40 から 12:10）とする。			
成績評価基準	秀(100～90 点)、優(89～80 点)、良(79～70 点)、可(69～60 点)、不可(59 点以下)とする。			
実務経験及び実務を活かした授業内容				

学生への メッセージ	この授業で学んだ知識や人間観を、法の学びに活かしてください。また、社会心理学は「家庭裁判所調査官補」の試験で出題される科目の一つです。
---------------	---